

春 告 草

第 151 号 令和元年 9 月 4 日 進路指導部発行

行事を楽しみ、受験のエネルギーを蓄える 来週末は鷹校祭

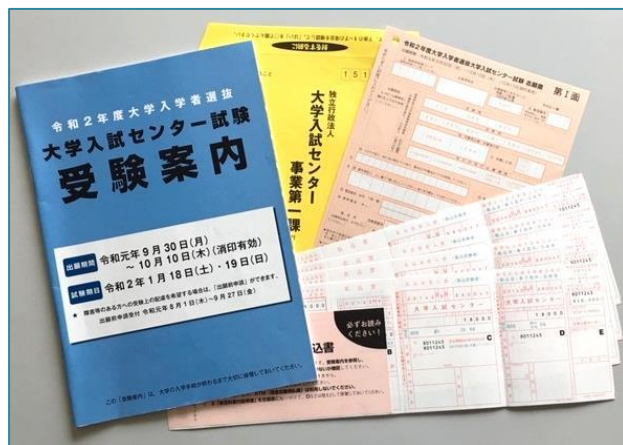
手元にセンター試験の受験案内が届いた。来年受験する 6 年生には今日の 5 限目を使って、これを配付して志願票の書き方や今後の受験手続などについて説明することになる。大学受験生ともなれば、中学受験時のようにすべて親任せにするわけにもいかないだろうから、願書の記入は勿論のこと、受験料等の振り込みも受験生本人がすることが多くなるだろう。受験勉強だけではなく、願書提出などについても計画的に手続を進めていかなければいけない。また、Web出願など新しい入試の手続きにも対応しなければいけない。先の話になるが、合格発表後の入学手続きも期限をよく確認して、くれぐれも粗相のないようにしてもらいたい。合格したけれども締切日を間違えて、浪人する羽目になっては、泣くに泣けないだろう。

さて、鷹校祭が来週末から始まる。夏休み中から、学校や予備校・塾の講習の合間を縫って準備を進めてきたことと思う。そんな中で、あなたはクラスの一員として協力してきただろうか。受験を口実に、友達任せにしてしまったことはなかっただろうか。受験で大変なのは皆同じだ。在卒態でも卒業生は「行事にはしっかり取り組んでください」と後輩の皆さんに声をかけていた。「浪人時代は勉強しかないので息が詰まる。合唱祭や鷹校祭の行事が、受験勉強を進めていく際、良い意味での気分転換になり、勉強にも集中して取り組むことができた」と言っていたのは、1 年浪人して国立大に進学した一期生の F さん。長く辛い受験勉強を最後まで乗り切るためには、気持ちのリフレッシュ、心の充電も必要だ。6 年生にとって本校最後の行事となる鷹校祭まであと 10 日。そして、2 週間後の体育祭で三鷹中等 6 年間の行事がすべて終わってしまう。受験で大変な時期だからこそ、思いっきりこの行事を楽しんでみよう。これから先、受験が近づくにつれ、これまでに味わったことがないような緊張やストレスを感じることもあるだろう。そんな時、行事をクラスみんなでやり切ったことが受験へ向かうエネルギー、元気の素になっていくはずだ。受験は駅伝のようにランナーが襷をつないでいくものではないが、目を閉じれば自分と一緒に「大学入学」というゴールへ向かって一緒に走っている仲間が見えてくるのではないだろうか。是非、そんな仲間たちと最後の行事を思いっきり楽しんでもらいたい。そして、その後は受験に全力を注いでいくのだ。

受験案内に同封されている書類一式

センター試験の出願方法や出願後の手続きなどを解説した「受験案内」の他、出願票、検定料の振込伝票、出願手続きのポイントをまとめた印刷物などが同封されている。志願票送付用の封筒は既卒生が使う。現役生徒は出願手続きすべて在籍校を通して行うので使うことはない。

5 年生以下は新テストになるが、手続き方法などに大きな変更はない。4、5 年生で入手したい場合は最寄りの大学でもらうことができる。国公立大学はもちろん、センター試験利用入試を行っている私立大学の窓口でも入手可能だ。(一番近いのは杏林大井之頭キャンパス)



入試が変わる

新テストが行われる2021年度入試（現5年生受験年度）を前に、20年度入試において大きな変更点はないと言われている。しかし、IT技術の急速な発達、少子高齢化、グローバル化は容赦なく進み、こういった社会的ニーズに沿った変更が見られる。次年度以降の大学入試のトレンドを確認しておきたい。

理工系で進む学部・学科の再編

2020年度入試における主な大学の学部学科改組・入試変更点をまとめた（下表…国公立大、裏面…私立大）。

2020年度入試 学部学科改組・入試変更点(国公立大)

大学名	主な変更点
北海道大学	医学部(医学科)の一般入試(前期)の募集定員を97人から90人に変更
弘前大学	医学部に心理支援科学科を新設
東北大学	経済学部で「理系入試」を導入。募集人員は前期、後期、AO入試Ⅲ期の各10人
福島県立医科大学	医学部の後期日程を廃止し前期の募集人員増(一般枠42人→50人、地域枠25人→30人)
筑波大学	医学群(医学類)の一般入試(前期)募集人員を58人から49人に、推薦入試を36人から44人に変更 医学群(医学類)で「研究型人才入試」を導入
宇都宮大学	群馬大学と連携し、共同教育学部を新設
首都大学東京	2020年4月より、東京都立大学に名称変更
新潟大学	文系4学部を再編し、経済社会科学部(経済社会科学科)を新設
静岡県立農林環境専門職大学	静岡県磐田市に開学。生産環境経営学部(生産環境経営学科)を設置
大阪大学	医学部(医学科)の一般入試(前期・個別)の理科・数学・英語の配点を各200点から各500点に変更
鳥取大学	医学部(医学科)の後期日程を廃止
広島大学	医学部(医学科)の後期日程を廃止
九州大学	医学部と歯学部の一一般入試(前期)で面接を実施
長崎大学	情報データ科学部(情報データ科学科)を新設

理系人材を養成する学部注目すると、東京都市大は工学部を理工学部名称変更し、既存の建築学科を独立させて建築都市デザイン学部を新設する。建築系を学部へ独立させる動きは最近の傾向で、すでに工学院大、芝浦工大、近畿大でスタートし、次年度からは武庫川女子大も生活環境学部建築学科を建築学部へ改組する。21年度には関西学院大も現在の理工学部を改組し、理、工、生命環境、建築の4学部を設置する予定だ。

東京工科大学は、コンピュータサイエンス、応用生物、デザインの3学部において、専門分野を細分化した専攻単位の募集が変わる。早期から専門性の高い教育・研究を始めることが狙いという。

龍谷大は理工学部を先端理工学部へ改組する。多様な学習ニーズに対応した分野横断型の専門教育を行うため、縦割りになりがちな学科制を廃止し、従来の枠を超えて先端技術を学べる課程制を導入する。

この他、神奈川工科大が健康医療科学部、摂南大が農学部を新設する予定である。

入試面では、慶応義塾大理工学部に動きがある。これまでの学門1～5という区分を見直し、A～Eまでの各学門に「物理・電気・機械」や「情報・数学・データサイエンス」など、教育・研究内容が分かる名称が付記される。各学門の学びの内容が分かりやすくなると、学門間で受験生に人気のある分野とない分野の序列が生まれ、人気が高い学門は入試が難化する可能性がある。今年の入試では東工大がこれまでの類別募集から、理学院、工学院、情報理工学院など学院別の募集に切り替わった。人気の高かった情報理工学院（9.8倍）と人気のない生命理工学院（2.5倍）の間では大きな志願倍率の差が生じた。慶応義塾大でも情報系学門の人気の高まる可能性が高い。

情報系の新設では、立命館大・理工が数理科学科にデータサイエンスと数学の2コースを設置する。

慶應義塾大学理工学部の学門制(学門別に選考 学科への振り分けは2年進級時)

学門(系統)	学科
学門A(物理・電気・機械系統)	物理、物理情報工、電気情報工、機械工
学門B(電気・情報系統)	電気情報工、情報工、物理情報工、システムデザイン工
学門C(情報・数学・データサイエンス系統)	情報工、数理科学、管理工、生命情報
学門D(機械・システム系統)	機械工、システムデザイン工、管理工
学門E(化学・生命系統)	化学、応用化学、生命情報

文系学部でも理数系科目が重視される

春告草147号でも取り上げたように今後はデータサイエンスの知識がますます重視されるようになるだろう。現在データサイエンス学部を設置する、武蔵野大、滋賀大、横浜市立大をまとめてMUSIC(CはYokohama City UniversityのC)と表現した雑誌記事もあったが、来年度は長崎大が情報データ科学部(情報データ科学科)を新設し、立命館大は理工学部数理学科にデータサイエンスコースと数学コースを新設する。各大学の内容はアプローチの仕方が文系寄りか理系寄りかの違いがあるが、文系学部でも理系的な素養が求められる時代である。

東京理科大経営学部は数理・数量的なアプローチにより経営学を理解するカリキュラム編成が特長で、受験生人気も高い。このように理系人材は社会科学系でも注目されている。

20年度は、成蹊大が経済学部を経済数理学科と現代経済学科の2学科に改組し、さらに経営学部を新設する。共立女子大はビジネス学部を設置する予定だ。

入試面では東北大経済学部が個別試験に数Ⅲ、理科発展2科目を課す理系入試を実施する。また、早稲田大政治経済学部は21年度から導入される大学入学共通テストの数Ⅰ数Aを必須にすると発表している。

グローバル人材の養成が加速化

グローバル人材養成の面からは、成蹊大がグローバル教育プログラム「EAGLE(Education for Academic and Global Learners in English)」を立ち上げる。「2教科型グローバル教育プログラム統一入試(G方式)」で30名を選抜し、各学部へ属しながら、プログラムに参加する。EAGLE科目は英語で行い、1年次のケンブリッジ大短期留学、2年次以後の留学などがプログラムされている。グローバル人材の養成を意識した入試ということでは、日本女子大が全学部で「英語外部試験利用型一般入試」を実施する。明治大国際日本学部や早稲田大文化構想学部と文学部なども、英語民間検定試験のスコアを活用する入試を導入することで、「聞く、話す、読む、書く」といった4技能を測る。

20年度開設予定のグローバル系学部には、専修大国際コミュニケーション学部、神奈川大国際日本学部、中京大国際学部、甲南女子大国際学部、西南学院大外国語学部などがある。このうち、専修大の国際コミュニケーション学部は、神田キャンパスの新校舎に設置される。神奈川大国際日本学部も、21年度に開設されるみなとみらいキャンパスに移転が予定されている。ともに利便性の高いキャンパスへの設置、移転で人気が高まりそうである。

2020年度入試 学部学科改組・入試変更点(関東圏私大)

大学名	主な変更点
桜美林大	航空・マネジメント学群を新設/東京ひなたやまキャンパス(町田市)を開設し、芸術文化学群を移転
共立女子大	ビジネス学部(ビジネス学科)を新設
慶應義塾大	理工学部一般入試の学門名称と構成を変更/医学部一般入試の募集人員を68人→66人に変更
成蹊大	経済学部を経済数理学科と現代経済学科の2学科に改組/経営学部を新設/「2教科型グローバル教育プログラム統一入試(G方式)」を導入。合格者は入学後、グローバル教育プログラム「EAGLE」に所属
専修大	神田キャンパスの新校舎に国際コミュニケーション学部(日本語学科、異文化コミュニケーション学科)を新設/経済学科を現代経済学科と生活環境経済学科に再編/商学部を生田キャンパスから神田キャンパスへ移転
大正大	社会共生学部(公共政策学科、社会福祉学科)を新設
中央大	経済学部で「高大接続入学試験」、理工学部で「高大接続型自己推薦入試」を導入
東京工科大	3学部を2専攻制に改組。コンピュータサイエンス学部(人口知能、先進情報)、応用生物学部(生命科学・医薬品、食品・化粧品)、デザイン学部(視覚デザイン、工業デザイン)
東京都市大	工学部を理工学部名称変更し自然科学学科を新設/建築都市デザイン学部(建築学科、都市工学科)を新設/知能工学部を情報工学部に名称変更
日本女子大	全学部・学科で「英語外部試験利用型一般入試」を実施
明治大	国際日本学部の一般入試で「英語4技能試験活用方式」を導入
目白大	心理学部(心理カウンセリング学科)を新設
立教大	社会学部で「自学力入試」を導入
早稲田大	文化構想学部と文学部の一般入試(英語4技能テスト利用型)で利用できる4技能テストに「TEAP CBT」など4種類を新たに追加
神奈川大	国際日本学部(国際文化交流学科、日本文化学科、歴史民俗学科)を新設/2021年4月にみなとみらいキャンパスを開設し、国際日本、外国語、経営の3学部を設置する予定。
神奈川工科大	健康医療学部(看護学科、臨床工学科、管理栄養学科)を新設

首都圏の受験生にとっては、首都大も注目ポイントの一つだ。来年度から東京都立大学に名称が変更される。内容が分かりにくかった一部の学部名も18年に旧学部名に戻され、旧都立大が復活した印象が強い。伝統復帰により、志願者増は必至だろう。今後の志望動向は注意してみていきたい。

21年度入試改革

間もなく大学入学共通テストで用いる英語資格・検定試験(以下、検定試験)の共通IDの申請手続きが5年生対象に行われるが、最後に21年入試の状況に触れておこう。

共通テストにおける検定試験は、北海道大や東北大など一部の大学を除き、活用する方針だ。中でも東京都立大は個別試験の英語の独自試験を実施せず、共通テストと検定試験だけで英語の学力を測定する。その他の大学も出願資格になるのか、点数化するのかなど、志望大学の情報は確認しておきたい。

(http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/1420229.htm)

国公立大に比べ、私立大については、検定試験の活用は明確になっていないところが多いが、少しずつ明らかになってきている。

立教大は文学部以外の学部のすべての入試で英語の独自試験を実施しない。検定試験のスコアを得点化し、英語以外の2科目と合わせて、3科目の成績で可否を決定する。試験日も5日(理学部は2日)設定する予定だ。全学部統一の日程で試験時間や出題傾向など共通点が多いため、複数日受験することで合格の可能性が広がりそうだ。また、これとは別に文学部は独自の英語試験を課す方式を継続する。さらに共通テスト利用選考もあり、入試の機会が増えることになる。

法政大学はGIS(グローバル教養学部)の英語外部試験利用選考で検定試験のスコアを得点に換算、理工学部機械工学科航空操縦学専修の共通テスト利用選考において検定試験を出願資格として使用するとしているが、これ以外では検定試験のスコアの活用は発表されていない。

上智大はこれまでセンター利用入試を実施していなかったが、共通テスト併用方式を実施する。すなわち、共通テストを課したうえで、大学独自の試験を行い、思考力や判断力、表現力を評価する。

青山学院大では共通テストと学部独自問題を組み合わせた併用方式が大幅に導入される。個別学部の一般選抜においては、経済学部以外の全学部は共通テストを併用する方式となる。経済学部および文学部と理工学部では、共通テストを併用しない方式も実施される。詳細は未定としているので、今後の発表に注目していきたい。全学部選抜においては、独自試験のみでの実施となるようだ。

早稲田大では政治経済、国際教養、スポーツ科学の各学部の一般選考で共通テストが必須となる。政治経済学部は既に配点も発表されていて、共通テスト100点、英語外部検定試験および学部独自試験100点の合計200点満点の選考を行う。共通テストに関しては、①外国語(英語はリスニングを含む) ②国語 ③数学Ⅰ・数学A ④{地歴、公民、数学(数学Ⅱ・数学B)、理科}から1つを選択の4科目を25点ずつに換算する。英語外部検定試験と学部独自試験の配点比は3:7としている。

以上、いくつかの大学について21年度入試情報を紹介した。文部科学省の発表によれば、検定試験の活用状況について約3割の大学が未定だという。発表済みの大学についても、今後の変更はあり得ることなので、志望大学については、ホームページなどで最新情報を逐次確認していこう。

主体性評価の実施状況も気になるところ。これはWeb出願時に高校時代の活動歴を本人が記載(入力)するが、可否には直接影響ないとする大学が多い中、筑波大、佐賀大では調査書を点数化する。昭和女子大も可否のボーダーライン上の受験生に限って、高校時代の活動歴を合否判定に利用するとしている。

学部・学科改組や入試改革など、ここ数年で大学入試は大きく動くだろう。今後も春告草の記事には目を通して、さらに各大学のホームページや受験サイトなどから最新情報を入手するよう努めてもらいたい。

早稲田大学が公表している活動歴の記入(イメージ)

高校入学または中等教育学校の後期課程入学にあたる年齢からこれまでに、学校内外で取り組んだ「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」をもって活動したこと、経験したことについて、100文字以上500文字以内で記入してください。

※活動歴の記入は出願要件であるが、活動内容について得点化はしないとしている

